

京大吉田寮の新たな100年を紡ぐ 保全改修アイデアを募集

現存する最古の木造学生寮「吉田寮」の再生デザイン提案を募集。学生寮の見学会、展示会・公開審査会を行います。

表彰作品はweb掲載するほか、冊子等を作成し、多くの方にご覧いただくことも予定しています。雑誌等各種メディアなどでの公表も、各媒体に打診中です。

応募締め切り

2018.9.13 **Thu** 必着

エントリー
受付中



再生デザイン部門

築105年の吉田寮建築の再生デザイン提案作品
(修繕・リノベーション・一部改修を含む)

継承プログラム部門

建築の枠にとらわれない
自由な発想やアイデア、表現作品

公式サイト 市民と考える吉田寮再生100年プロジェクト
<http://yoshidaryo100nen.deci.jp/2018/>

スケジュール

見学会の開催

参加費無料

7月29日(土)・30日(日)、8月4日(土)・5日(日)

現在も学生が生活する現役の学生寮である「吉田寮」。寮生自らが案内し、建物の様子や自主管理に基づく寮生活などを見学。寮生による「食堂酒場」にご参加いただける、土曜日でのご参加を推奨。提案募集に応募する人もそうでない人も気軽にお越しください。

応募締め切り

9月13日(木) 必着

吉田寮にて応募作品の展示会を開催

9月18日(火)～24日(月)

意見交換会(公開シンポジウム)

9月23日(日)

各界の有識者を招き、参加者全員で表彰作品を選考するとともに、吉田寮の未来を思い描く公開シンポジウムを開催します。

審査員コメンテーター 敬称略・五十音順

石田潤一郎	京都工芸繊維大学名誉教授
岩井 清	岩井木材・木材アドバイザー
魚谷 繁礼	都市居住推進研究会
ウスビ・サコ	京都精華大学学長
尾池 和夫	京都造形芸術大学学長・元京都大学総長
大島 祥子	都市居住推進研究会
大場 修	京都府立大学教授
高田 光雄	京都美術工芸大学教授・京都大学名誉教授
谷口菜穂子	写真家
中嶋 節子	京都大学教授
西澤 英和	関西大学教授
馬場 正尊	Open A 東京R不動産
広原 盛明	京都府立大学元学長
山根 芳洋	七灯社建築研究所

この他の方にも打診中です。追ってwebサイト上で発表します。



本企画立ち上げの経緯

吉田寮「現棟」は1913年(大正2年)に建てられた現存する日本最古の木造学生寮建築です。これと、2015年に全面補修された「食堂」、同年に新築された「新棟」の3つから吉田寮は成り立っています。

このうち、現棟は京都大学の学生寮として現在まで100年余の間、使い続けられています。

しかし、築105年を迎え、現棟は老朽化による災害への弱さが懸念されており、京都大学は2017年12月、「すべての吉田寮生は2018年9月末までに現棟・新棟から退舎すること」を吉田寮生に言い渡しました。寮生が退去した後の吉田寮をどのように扱うのかについて、そこでは明らかにされていません。私たちは現棟の建物そのものがなくなること、またその建物を持つ大正木造建築の魅力や歴史の蓄積が失われてしまうことを危惧して、建物の保存活用と歴史・文化の継承に、市民に開いた形で取り組むためにこのような企画を立ちあげました。

吉田寮生を中心に、様々な方に助言・協力を頂きながら企画運営しています。

木造建築のすばらしさ

吉田寮現棟は建築面積は2000平米を超える大規模木造建築で、ほぼ建築当初の姿を留めています。

戦前の大学から続く多くの木造学生寮は1970～80年代に取り壊され、戦前の学生生活の姿を留める学生寮は殆ど残っていません。また、吉田寮では建物とともに多くの歴史資料・生活資料が残っており、それらを引き継ぎ、修整しながら寮運営がなされてきました。

現棟には長く反りの少ない柱目の木材など、現在の日本では入手困難な貴重な木材が多く使われています。階段の親柱には旧制第三高校の意匠が見られます。

また、現棟は100年経った建物としては驚くほど傷みが少なく、それは通気性や日照を考えた衛生的な設計の賜物であると考えられています。

主催 「市民と考える吉田寮再生100年プロジェクト」実行委員会(寮生有志)

お問い合わせ: yoshidaryo100nen@gmail.com

公式サイト: <http://yoshidaryo100nen.deci.jp/2018/>

後援 吉田寮自治会

「21世紀に吉田寮を活かす元寮生の会」理事一同

Address: 京都大学吉田寮(京都市左京区吉田近衛町69)

最寄り 近衛通(市バス、徒歩1分)・神宮丸太町駅(京阪、徒歩12分)

市バス京大病院ライナーは京大病院前(徒歩4分)で降車が便利です。